

2016年度中間期 決算説明会

DOWAホールディングス株式会社

2016年11月9日

2016年度上期決算の概要

■ 連結損益計算書

単位：億円

	2015年度 上期実績①	2016年度上期				前年同期比増減 (③ - ①)	
		5/10予想②	実績③	増減 (③ - ②)			
売上高	2,082	1,850	1,847	△ 2	△0%	△ 235	△11%
営業利益	202	115	133	18	16%	△ 69	△34%
経常利益	206	105	135	30	29%	△ 70	△34%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	120	75	98	23	32%	△ 21	△18%

■ 決算のポイント

部 門	営業利益 前年同期比増減		主な増減内容
環境・リサイクル	△ 6億円	△19%	低濃度PCB処理量減少、東南アジアの石油関連廃棄物減少
製錬	△53億円	△62%	円高や金属価格の下落、原料条件の悪化により減益
電子材料	△18億円	△39%	スマートフォン向けLED減販、円高による減益
金属加工	+ 5億円	+21%	伸銅品は自動車向け、半導体向けともに堅調
熱処理	+ 2億円	+44%	自動車向け熱処理加工の需要堅調、燃料コスト減

金属価格： 銅やインジウム価格は弱含み、貴金属や亜鉛などは価格上昇

為 替： 円高の進行が続き、昨年同期比で約17円の円高水準

セグメント別の損益（上期） 当初予想比

単位：億円

	2016年度上期予想（5/10公表）			2016年度上期実績			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・ リサイクル	450	24	23	454	26	24	4	2	1
製錬	940	20	18	945	32	39	5	12	21
電子材料	220	30	30	270	28	28	50	△ 1	△ 1
金属加工	360	28	29	350	32	32	△ 9	4	3
熱処理	130	10	9	115	8	7	△ 14	△ 1	△ 1
その他、 全社消費	△ 249	3	△ 4	△ 288	5	4	△ 39	2	8
計	1,850	115	105	1,847	133	135	△ 2	18	30

2016年度 連結業績の見通し

単位：億円

	2015年度 実績	2016年度 業績予想	比較増減	
売上高	4,065	3,850	△	215
営業利益	350	290	△	60
経常利益	350	290	△	60
親会社株主に帰属する 当期純利益	218	200	△	18

- ✓ 経常利益は当初予想比で上期は増益、通期見通しも上振れ基調
- ✓ 為替や金属価格など相場環境が流動的であることから、現時点では通期の業績予想は据え置きとした

セグメント別の損益（通期） 当初予想比

単位：億円

	2016年度当初予想（5/10公表）			2016年度業績予想			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・ リサイクル	970	68	68	940	59	61	△ 30	△ 9	△ 7
製錬	1,930	72	76	1,970	80	82	40	8	6
電子材料	440	58	59	520	52	53	80	△ 6	△ 6
金属加工	730	61	62	700	65	66	△ 30	4	4
熱処理	275	24	23	250	23	22	△ 25	△ 1	△ 1
その他、 全社消費	△ 495	7	2	△ 530	11	6	△ 35	4	4
計	3,850	290	290	3,850	290	290	0	0	0

2016年度下期 前提条件と感応度

感応度（営業利益／下期）

単位：百万円

	前提条件	変動幅	感応度
為替	105.0 円/\$	± 1 円/\$	220
銅	4,600 \$ /t	±100 \$ /t	20
亜鉛	2,300 \$ /t	±100 \$ /t	200
インジウム	200 \$ /kg	±100 \$ /kg	300

※為替感応度の内訳は、製錬180百万円、電子材料40百万円です。

為替、金属価格

	2015年度			2016年度			(参考) 直近
	上期	下期	通期	上期	下期前提	通期見込	10月平均
為替：(円/\$)	121.8	118.5	120.1	105.3	105.0	105.1	103.8
銅：(\$/t)	5,653	4,778	5,215	4,752	<u>4,600</u>	4,676	4,732
亜鉛：(\$/t)	2,019	1,643	1,831	2,084	<u>2,300</u>	2,192	2,314
インジウム：(\$/kg)	369	235	302	222	<u>200</u>	211	199

※下線部が本年8月5日公表の前提条件から変更した箇所です。

感応度については、現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の影響額は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

参考① セグメント別の損益（上期）前年比

単位：億円

	2015年度上期実績			2016年度上期実績			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・ リサイクル	497	32	30	454	26	24	△ 42	△ 6	△ 5
製 錬	1,104	86	94	945	32	39	△ 158	△ 53	△ 55
電子材料	251	47	49	270	28	28	19	△ 18	△ 20
金属加工	403	26	27	350	32	32	△ 52	5	4
熱 処 理	124	6	5	115	8	7	△ 9	2	2
その他、 全社・消去	△ 297	3	△ 1	△ 288	5	4	9	1	5
計	2,082	202	206	1,847	133	135	△ 235	△ 69	△ 70

参考② セグメント別の損益（通期） 前年比

単位：億円

	2015年度実績			2016年度業績予想			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・ リサイクル	983	63	61	940	59	61	△ 43	△ 4	△ 0
製 錬	2,149	133	139	1,970	80	82	△ 179	△ 53	△ 57
電子材料	483	80	82	520	52	53	36	△ 28	△ 29
金属加工	774	49	50	700	65	66	△ 74	15	15
熱 処 理	241	13	11	250	23	22	8	9	10
その他、 全社・消去	△ 565	11	4	△ 530	11	6	35	△ 0	1
計	4,065	350	350	3,850	290	290	△ 215	△ 60	△ 60

参考③ 探鉱プロジェクト費用の見通し

単位：億円

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度			2017年度	2018年度	2019年度～
				上期実績	下期見込	合計			
アラスカ (Palmer)	探鉱 (総額22M\$を拠出、49%権益を取得)						(探鉱)	→	(FS)
営業費用 (探鉱費)	3	8	7	1	5	6	数億円/年		
メキシコ (Los Gatos)	FS (総額50M\$を拠出、30%権益を取得)						(開発・許認可)	→	(生産開始)
営業外費用 (持分法投資損失)	-	-	16	7	2	9			
特別損失 (投資有価証券評価損)	-	12	15	-	-	-			
■ 各段階利益における影響 (符号が△は損失)									
営業利益	△ 3	△ 8	△ 7	△ 1	△ 5	△ 6			
経常利益	△ 3	△ 8	△ 23	△ 8	△ 7	△ 15			
当期純利益	△ 3	△ 20	△ 38	△ 8	△ 7	△ 15			

・アラスカ (Palmer)
2017年度も探鉱を継続予定

・メキシコ (Los Gatos)
FSは2016年末に完了予定
その後、開発ステージへ移行

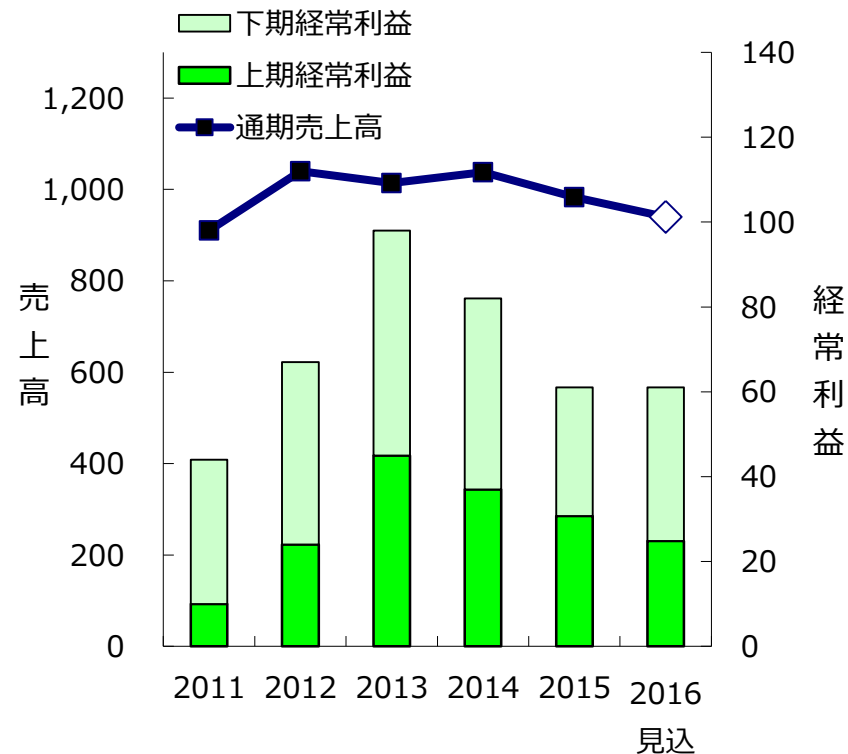
各事業の状況と今後の取り組み

2016年度の状況

- ・ 廃棄物：発生量は微減。低濃度PCB廃棄物は価格競争強まる
- ・ 土壌浄化：東北地区の案件多く堅調
- ・ 東南アジア：経済成長継続、廃棄物の総発生量は増加も、石油掘削汚泥は低調

売上高/経常利益推移

単位：億円



今後の取り組み

- 廃棄物処理**
 - ・ 自社処理から外部委託への切替需要取込、一般廃棄物の処理拡大
 - ・ 低濃度PCB廃棄物：コスト競争力強化、新規顧客からの集荷拡大
- 土壌浄化**
 - ・ 現地浄化案件の獲得など自然由来汚染土壌の増処理
- リサイクル**
 - ・ グループ拠点活用による米国・アジアからのリサイクル原料の増集荷
- 東南アジア**
 - ・ 最終処分場の新設・拡張に向けた環境アセスメント推進

国内の廃棄物処理事業の取り組み

低濃度PCB廃棄物

廃電気機器等の許認可処理事業者は増加
大量の保管量に対し、排出量の伸びは依然緩やか
→ 足元は価格競争が強まる

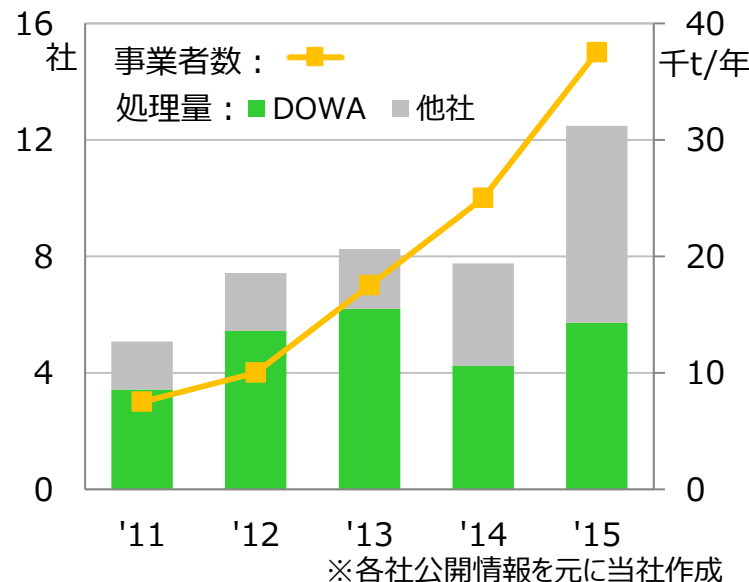
- ・競争力強化：処理効率向上、事前解体費低減
- ・洗浄処理業者との協業、小口顧客からの増集荷

一般廃棄物

処分場の逼迫、リサイクルニーズ、財政負担軽減
→ 民間への処理委託の拡がり

- ・焼却灰の溶融・再資源化事業を拡大
メルテックいわきの立ち上げなどで処理能力3倍へ
- ・焼却処理、最終処分でも受託を拡大

廃電気機器等の処理事業者数と処理量



焼却灰の溶融・再資源化フロー

自治体のごみ処理施設
などからの焼却灰

溶融(メルテック・メルテックいわき)

再資源化

人工骨材



溶融メタル

2016年度の状況

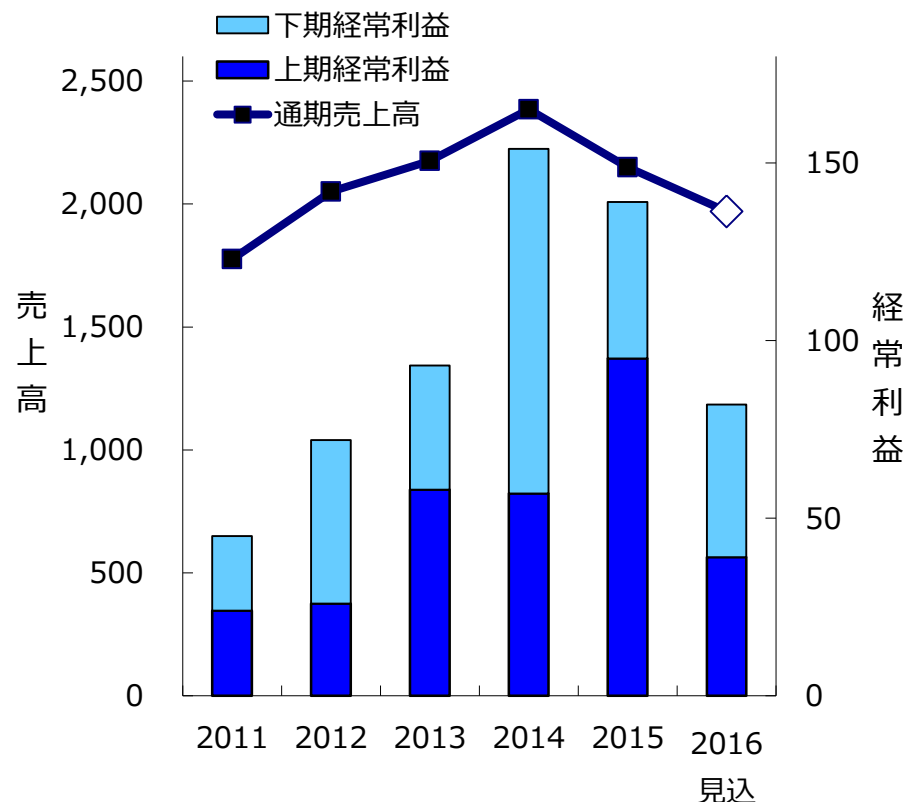
- ・亜鉛や貴金属価格は底堅く推移、為替は円高基調継続
- ・国内の地金需要は、建設向け低調
- ・白金族原料の集荷は、貴金属価格回復の影響で増加傾向

今後の取り組み

- 貴金属銅
 - ・小坂製錬の不純物対応力強化と副産金属回収能力強化
- PGM
 - ・日本ピージーエムの処理能力増強と海外集荷の拡大
- 亜鉛
 - ・秋田製錬の新焙焼炉立ち上げ、フル生産継続と競争力強化
- 資源
 - ・ロスガトスPJのFS完了（2016年12月）、開発ステージへ移行

売上高/経常利益推移

単位：億円



白金族リサイクルの強化

使用済み自動車触媒

環境規制強化を背景に世界的に発生量は増加続く



使用済み自動車触媒

■ 日本ピージーエムの能力増強

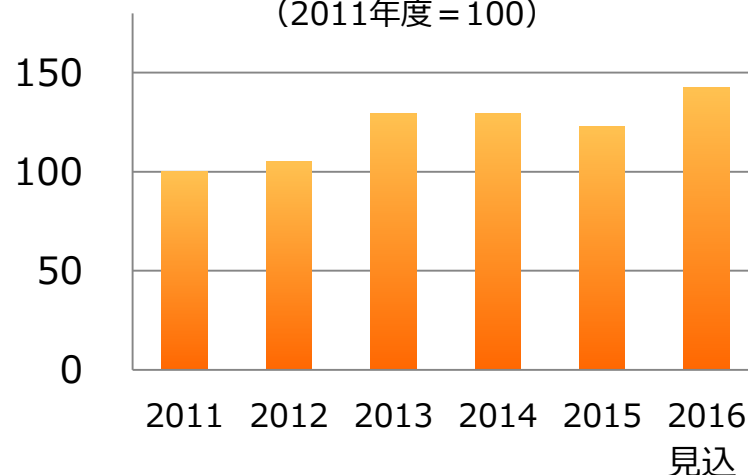
- ・2016年1Q 新溶解炉を立ち上げ
 - ・今後も各工程を順次増強
- 2020年までに処理能力を4割アップへ

■ 集荷の拡大

- ・北米、欧州拠点での営業人員増
- ・小口顧客からの集荷増

自動車触媒の集荷量

(2011年度 = 100)

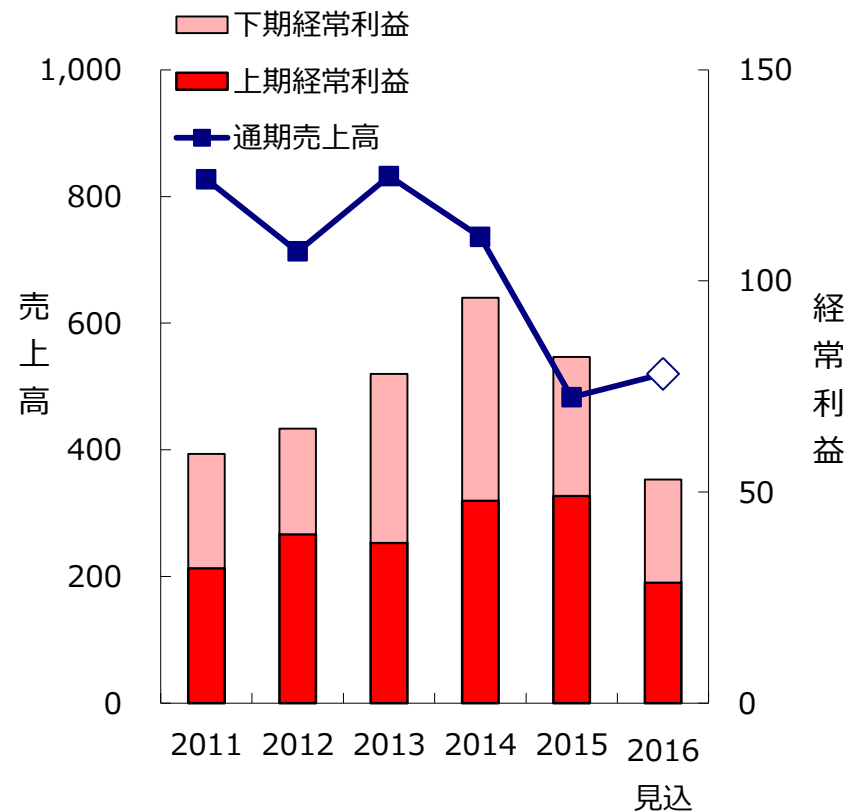


集荷・操業の両面を強化し、拡大する需要を取り込む

2016年度の状況

- ・ センサ向けLEDは、生産調整が継続
- ・ 新エネルギー向け銀粉は、北米・アジア市場を中心に堅調
- ・ 記録メディア向け磁性粉は、大容量化を背景にアーカイブ用途で堅調

売上高/経常利益推移 単位：億円



今後の取り組み

- **半導体**
 - ・ 光学式センサ向け新規製品の開発と用途展開の加速
- **電子材料**
 - ・ 堅調な銀粉需要に向けた生産性向上・人員体制強化
- **機能材料**
 - ・ さらなる大容量化に対するデータテープ用磁性粉の特性向上
- **新規開発**
 - ・ 電子回路部品・次世代タッチパネル向け材料の新規認定取得

センサ・電子回路向け新規製品の開発



心拍数センサ
(背面)



距離測定
センサ
(背面)

電子回路：
小型コンデンサなど (内部)

センサ向け

- ・スマートフォンやウェアラブル機器あたりのセンサ増
→ さまざまなバイタルデータに対して、それぞれの測定に適した新規LEDを開発中
- ・光学式センサでは、新たなセンシング方式が台頭
→ レーザー方式新規製品の開発と用途展開を加速

電子回路向け

- ・データ通信量の増大とともに、
部品の小型化・大容量化が進展

小型コンデンサ



電極用材料の多様化、要求特性の高度化

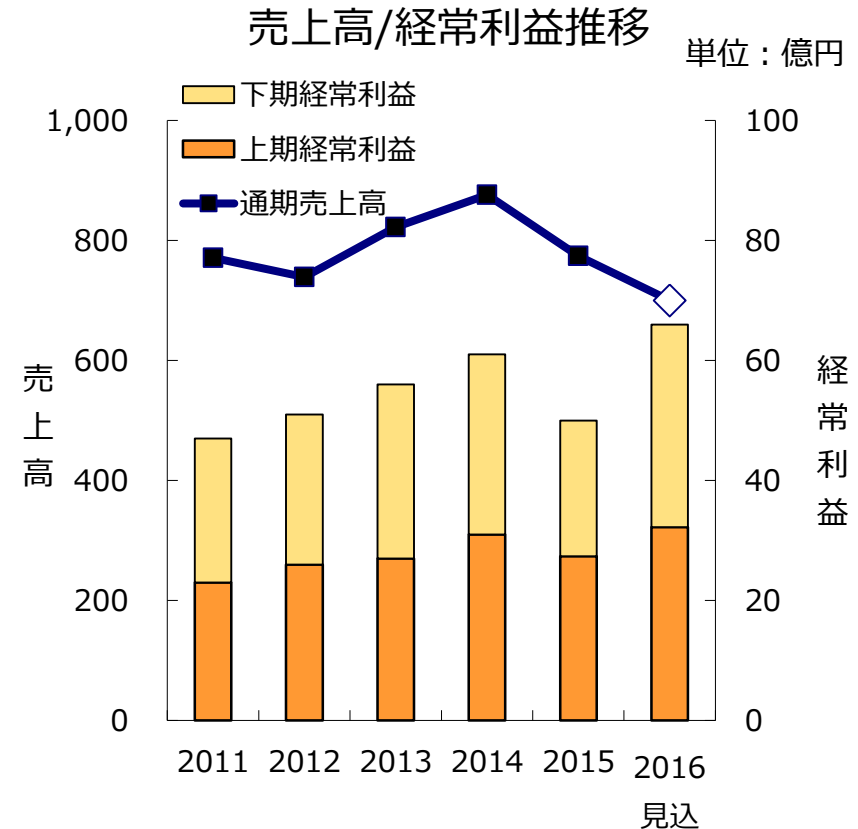
- 合金粉の特性向上を進め、ラインナップを拡充

2016年度の状況

- ・伸銅品：自動車向け、半導体向けはともに堅調、スマートフォン向け増加
- ・めっき：自動車の電装化に伴い堅調
- ・回路基板：産業機械向けは2Qより回復基調、鉄道向けは停滞

今後の取り組み

- **伸銅品**
 - ・自動車向け新規製品の量産設備立ち上げ
 - ・中国拠点を活用したスマートフォン向け高特性銅合金の拡販
- **貴金属めっき**
 - ・メキシコ工場の立ち上げ（2017年度）、日本・タイでの増産
 - ・ハイブリッドカーの高圧端子向け新規めっきの開発
- **回路基板**
 - ・軽量小型で高放熱性を有する新規製品の用途拡大



自動車向け新規製品の開発・拡販

自動車の電動化・電装化が進展
ハイブリッドカーの生産拡大、コネクタやスイッチの増加

電動化

高耐熱・高導電合金

早期上市に向けて開発

高硬度めっき

昨年度から量産化

一体型回路基板

昨年度から量産化

リレーボックス

2次電池
コネクタ

インバーター向け
パワー半導体



ワイヤーハーネス
コネクタ

車載マイコン

電装化

低挿入カリフローめっき

今年度中にライン建設、
立ち上げ

高強度リードフレーム

サンプルワーク拡大

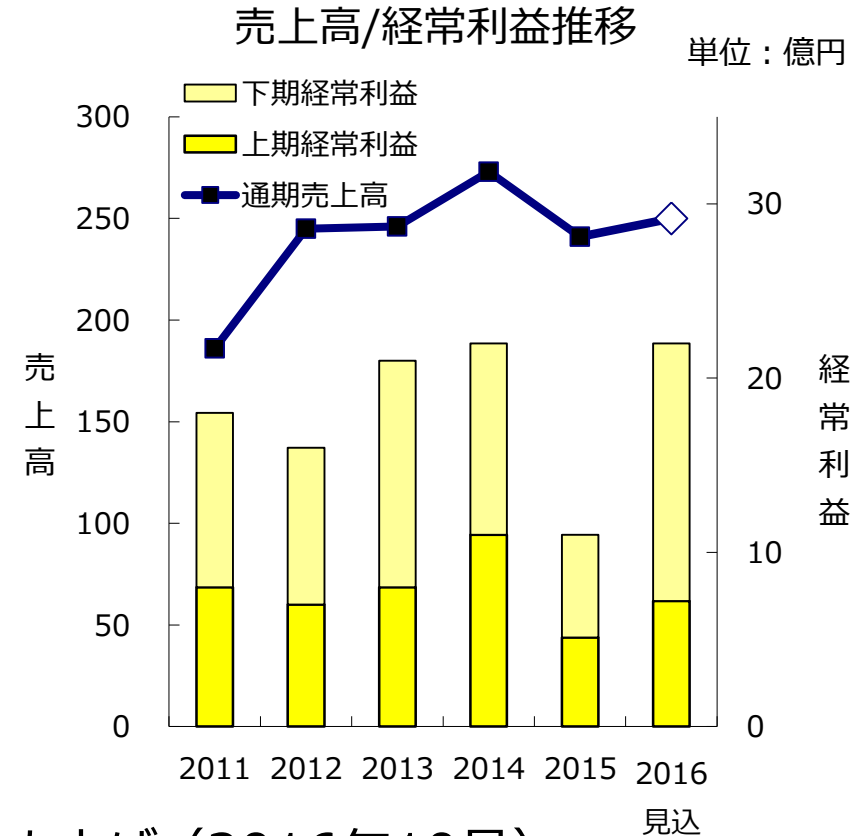
自動車向けニーズに対応した次世代製品の開発・拡販

2016年度の状況

- ・工業炉：年度末にかけて、設備投資案件やメンテナンス需要が増加
- ・熱処理加工：自動車向けは堅調、建機向けは停滞

今後の取り組み

- **海外事業**
 - ・メキシコ熱処理加工工場の立ち上げ（2016年10月）
 - ・東南アジアでの現調化需要に向けたインド製メンテナンス部品の拡販
- **国内事業**
 - ・浜松北工場での熱処理加工事業立ち上げ（2016年度下期）
 - ・工業炉の生産性向上と製造コスト低減による競争力の強化
- **研究開発**
 - ・小ロット対応可能な低コスト小型炉の商品化、新規分野での用途開拓



熱処理事業の強化・拡大

■ 熱処理加工

メキシコ

- ・熱処理加工工場を竣工（2016年10月）
- ・顧客の現地進出に応じ、処理メニューを拡大



メキシコ工場（サン・ルイス・ポトシ市）

日本

- ・浜松北工場内に新工場を建設
 - ・段階的に増強し、顧客の増産計画に対応
- ⇒ **増加する需要に対応し、生産能力を拡大**



浜松北工場（浜松市）

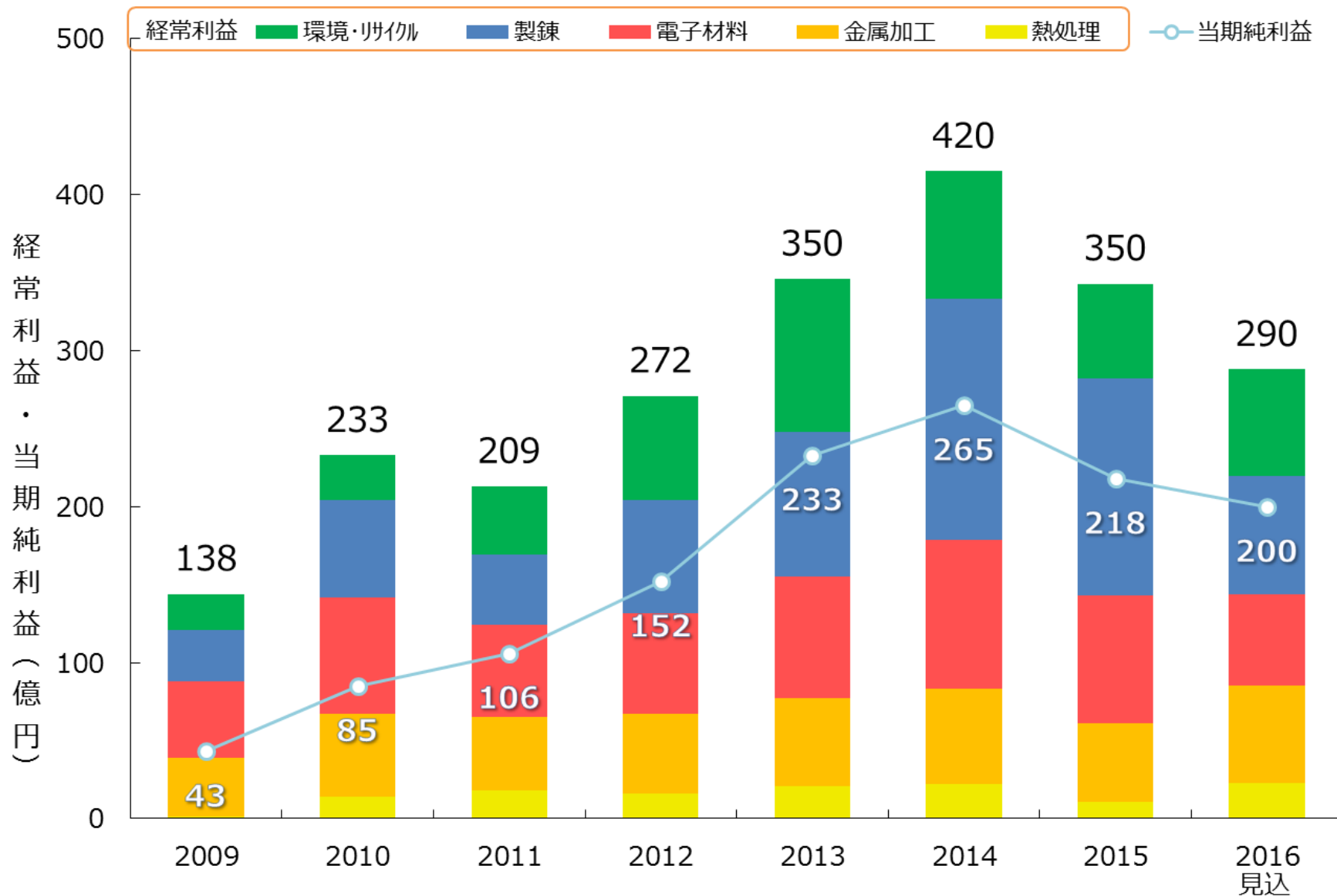
■ 工業炉

- ・インドなど海外拠点でのアライアンス拡大
- ・製造コスト低減と生産性向上の推進
- ・現調化による海外メンテナンス部品コスト低減



**自動車生産台数の増加により
海外で拡大する需要を取り込む**

経常利益・当期純利益の推移



DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。